

白金校舎近隣地域との関わりについて

大学も地域の一部であり、地域社会に支えられて存在している。しかも学生たちは卒業後、地域社会に出て行く。このことから地域とのつながりを重視して学生と地域をつなげることは、大学ボランティアセンターの必然的かつ重要な役割であると考えられる。

当ボランティアセンターも発足以来10年近くの間、白金・横浜両校舎においてたくさんの地域との関わりがあった。しかしその関係は表面的なレベルで終わっていたり、継続しなかったりしたため、結果として蓄積されなかった。特に2005年度は白金ボランティアセンターがほとんど機能していなかった事情もあり、2006年度は白金ボランティアセンターの建て直しと学生たちとの関係作りに終始した。しかし努力の甲斐もあり、白金ボランティアセンターにも活気が戻ってきた。こうしてようやくボランティアセンターの土壌を整えることができた後、2007年度の新たな課題として真っ先に取り組みたいと考えたのがボランティアセンターと地域との関係の構築であった。

そこでまず着手したのは、地域の情報を集めることだった。しかし、地域と言っても膨大な数の団体が存在しており、まずはどの範囲の「地域」と、どの程度の「関係」を構築するか具体的に示す必要があった。そこで、団体を「所在地が白金校舎近隣地域（目安は白金校舎から往復して徒歩20分程度の範囲、もしくは公共交通機関で往復30分程度の範囲。主に港区、目黒区、渋谷区、大田区、品川区）の団体であること」、「本学の学生が既に活動していたり、卒業生が関わっているなど、本学とゆかりのある団体であること」の2点に絞って開拓することにした。情報収集にあたってはこの2点を基本とし、本学の社会学部の教員や同学部附属研究所からの情報を頼りに、芋づる式に情報を集めた。また情報の分野が偏らないように出来るだけ幅広く集め、その中で適当と思われる団体にコーディネーターが直接足を運ぶ、もしくはボランティアとして参加することから始めた。この過程で非常に感激したことは、それぞれの現場で活躍する多くの本学卒業生たちに何度も出会ったことだった。改めて本学の歴史の重みと輩出されてきた人材の層の厚さを実感した。そのことが地域とのつながりをつくりたいという動機にもなり、この仕事を進めていく中での自信と確信へと変わっていった。

こうして2007年3月から4月にかけて様々な団体を訪ね、また既に団体登録¹⁾していただいている団体情報も併せて2007年4月、「白金キャンパス近辺☆オススメボランティア情報」を作成するに至った。具体的には、A4サイズに12団体の紹介をまとめ、コーディネーターからみたオススメポイントや現場の様子などを加えた内容で構成した。また「白金校舎から徒歩〇分」等、交通手段についても細かく記し、白金校舎徒歩圏内の団体には足のマークを、公共交通機関を用いる場合は電車のマークで表す工夫をした。また、コーディネーターから学生に団体や活動に関する説明を受けた上で連絡をとってもらいたいなどの要望を持つ団体や、問い合わせが多いと業務に支障をきたしかねない個人クリニックな

¹⁾ 団体登録に関しては本書「I. 2007年度活動報告 ボランティア募集团体への取り組み」を参照。

どもあったので、あえて連絡先は記載しなかった。それにより、団体の連絡先をコーディネーターに尋ねるためにボランティアセンターの扉をたたく学生が増えた。そして結果的に「白金キャンパス近辺☆オススメボランティア情報」が学生とコーディネーターのつながりづくり、白金ボランティアセンターの盛況につながった。

当初、「白金キャンパス近辺☆オススメボランティア情報」は試験的に作成したものであり、継続して発行することまでは考えていなかった。しかし予想外に好評で、カウンターの前はすぐになくなり、持ち帰った学生が実際にボランティア活動に参加しだすなど、大きな手応えがあった。中でも白金校舎から徒歩圏内の、港区で最初の老人ホームであり本学の卒業生も勤務している「白金の森」、地域とコンビを組むことをモットーにしている「コンビプラザ白金台保育園」は特に好評で、たくさんの学生がお世話になった。また同じく港区高輪地区で地域青少年の健全育成のため活動している「港区青少年対策高松地区委員会」も徒歩圏内であることから、夏のキャンプリーダーボランティア参加、秋のソフトボール大会出場、春のふれあいコンサート出演など、「ボランティア」という言葉を越えて、地域の方々と学生が直接交流させていただいた。他にも港区高輪に位置する「スリランカ大使館」主催の「スリランカフェスティバル」では、運営ボランティア、ボランティアリーダー、インターンシップボランティアとして多くの学生が参加し、5月末に開催されたフェスティバルで活躍した。募集と応募にあたってはボランティアセンターも説明会開催や広報、申し込み代行などの協力を行った。後日、大使が参加学生たちを感謝パーティに招待して感謝状まで渡して下さり、学生たちも大変感激した。港区新橋にある高齢者・知的障がい者福祉施設である福祉プラザさくら川とは今回の開拓がご縁で交流が始まり、夏に実施した「海外ボランティア体験学習プログラム（以下 MOP）」²⁾でも学生を受け入れて下さり、秋には連携プロジェクト³⁾を発足させるまでに至った。港区以外の例を挙げると、目黒区の「林試の森クリニック」は心理学部生を主として複数の学生を受け入れ、ボランティアセンターともども大変懇意にしてくださった。同じくフェアトレードショップの草分けである目黒区の「第三世界ショップ」には、本学の卒業生が勤務している噂を聞いた在学生たちが多く訪れるようになった。そして渋谷区表参道に本拠地を構え、「ごみのポイ捨てカッコ悪いぜ」を合言葉に「朝の合コン」を目指して全国的に「イケてる」クリーン活動を展開している NPO 法人「green bird」にもたくさんの学生がボランティアに参加させていただき、そこで触発された学生の一人が学内でも学生ボランティアサークルを立ち上げるに至った。また福祉プラザさくら川同様、同団体にも MOP²⁾の際、プログラム参加学生を受け入れていただいた。

上記で紹介した団体はごく一部であり、そのほかにも 2007 年度は、本当に多くの白金校舎近隣地域の方々、団体とつながりをつくることができた。そして、以前に比べ地域の方々から学生の様子を、また

²⁾ 詳しくは本書「I. 2007 年度活動報告 海外ボランティア体験学習プログラムについて」を参照。

³⁾ 詳しくは本書「I. 2007 年度活動報告 さくら川・明治学院大学地域連携プロジェクトについて」を参照。

学生たちから地域の情報を教えてもらうことも多くなった。この場を借りて心から感謝したい。また、うれしいことに「改訂版は出ないですか?」という学生たちからの声にお尻を叩かれる形で「白金キャンパス近辺☆オススメボランティア情報」は2007年4月の発行以来、2007年6月、9月、2008年1月に改訂を重ね、2008年3月現在 Vol.4 がカウンターに並んでいる。

このように、ボランティアの紹介にとどまらず、連携プロジェクトやプログラム受け入れ先というパートナーとしての新たな関係の構築、学生のボランティアグループ立ち上げのきっかけや、卒業生たちとの交流というところまで地域とボランティアセンターのつながりを発展させることができた。そして地域のニーズ、学外での学生たちの様子、そして学生がセンターに期待していることなどを把握しやすくなるなど、多くの手ごたえと可能性を感じている。地域とのつながりをつくる開拓は始まったばかりであるが、今後も持続可能な関係構築を目指し、地域と共に歩めるボランティアセンターを目指して努力を続けたい。

(李)